

【岐阜女子大学】メタデータ記述用紙

	メタデータ項目	メタデータ記述欄
1	ID	
2	表題名	沖縄の自然
3	資料名	泡瀬干潟
4	内容分類	自然・景観
5	索引語	沖縄、泡瀬、干潟、サンゴ礁干潟、泡瀬干潟、自然、環境、泡瀬干潟を守る連絡会、生態系
6	説明	<p>沖縄市の東海岸に広がる泡瀬干潟は、約 250 ヘクタールに及ぶ国内最大級のサンゴ礁干潟です。砂・泥・サンゴ礁・海草藻場・サンゴ礁が複雑に入り混じる環境で、その多様性と規模から、東京湾の盤州干潟や九州・有明海の干潟と並び、日本を代表する干潟のひとつとして注目されています。</p> <p>この干潟は、干潮時には豊富な底生生物が姿を現し、シギ・チドリ類などの渡り鳥にとって国際的に重要な中継地となっています。そのため、渡り鳥の保全や干潟生態系の研究にとって格好の場となり、国内外の研究者や市民による調査・観察活動が続けられています。</p> <p>さらに、泡瀬干潟は埋め立て開発をめぐる議論を背景に、保全活動や環境教育の場としても注目されており、「泡瀬干潟を守る連絡会」をはじめとする市民運動は、学術研究と地域社会をつなぐ実践の場ともなっています。このように、泡瀬干潟は自然環境の保全と地域社会のあり方を考える場になっています。</p> <p>また、泡瀬干潟は IBA（重要野鳥生息地）に指定され、国際的な鳥類保護の観点からも注目されています。ラムサール条約湿地への登録は実現していませんが、候補として議論された経緯があり、国際的な重要性が繰り返し指摘されてきました。こうした背景から、泡瀬干潟は干潟生態系の研究、環境教育、地域社会と自然保全の関わりを考えるうえで、学術的にも価値の高いフィールドです。</p> <p>沖縄市役所公式ホームページ、アンケートで国・沖縄県・沖縄市が公表している以外の情報（調査データ）を持っていると回答した団体とその内容について、 https://www.city.okinawa.okinawa.jp/documents/1134/leta.pdf、アクセス日 2025/8/17.</p> <p>「中城湾港（泡瀬地区）公有水面埋立事業」では、1980 年代に埋立てが構想され、2002 年に工事が開始。 〈事業の目的〉 中城湾港（泡瀬地区）埋立事業は、沖縄本島中部東海岸地域の活性化を図る</p>

		<p>ための経済振興策として、地元からの強い要請に基づき、国・県・沖縄市が一体となって取り組んでいるもので、国の「沖縄振興計画」にも本事業の推進が位置づけられている。</p> <p>事業は沖縄市の優位な資源であるスポーツや文化芸能を最大限活用し、国際リゾート拠点、海洋性レクリエーション拠点、情報・教育・文化の拠点を形成することにより、中部圏の魅力を高め、基地依存経済からの脱却と那覇都市圏との地域間格差の是正を図り、県土の均衡ある発展に寄与するものである。</p> <p>さらに、本事業は、県の主要施策である特別自由貿易地域（特別 FTZ）を支援する中城湾港（新港地区）の港湾整備とも密接な関係があり、新港地区への企業誘致を促進し、本県経済の振興を図る上でも早急な整備が必要だ。</p> <p>沖縄県、土木建築部 港湾課、中城湾港泡瀬地区開発事業（閲覧日 2022/12/03) panfuretto.pdf (okinawa.1g.jp)</p>
7	形式	静止画(. jpg)
8	氏名	加治工尚子
9	時代・年	撮影日 :
10	地域・場所	撮影場所 :
11	利用条件	表示 4.0 国際(CC BY 4.0)
12	関連資料	
13	権利者	岐阜女子大学 沖縄サテライト校
14	協力者	特になし
15	登録日	2021/12/03
16	登録者	金城咲綾
17	ファクトデータ	circd073t-0017.jpg
18	サムネイル	

19	公開の可否	公開可
		<p>【干潟】</p> <p>干潟は、気候や海象、特にサンゴ礁の有無によって生物多様性や環境が大きく異なります。日本の干潟でも、南西諸島や小笠原諸島のようなサンゴ礁海域と、本州沿岸のような非サンゴ礁海域とでは、生息する生物や底質の性質が大きく違います。サンゴ礁域の干潟は「イノー（礁湖・礁池）」の潮間帯に形成され、底質はサンゴ砂礫を主体とし、豊かな生物生産性と多様性を備えているのが特徴です。</p> <p>【泡瀬干潟の希少性の高い生き物】</p> <p>泡瀬干潟はその広大な面積と、複雑な地形・地質が形成する特異な環境をもち、海草藻類・貝類・カニ類・鳥類・サンゴ群集など多種多様な生物が生息する、日本を代表するサンゴ礁干潟である。</p> <p>①泡瀬干潟で見つかった新種（10種以上） オキナワキチヌ（魚）、ホソウミヒルモ（海草）、ユンタクシジミ（貝）、ザンノナミダ（貝）、ヒメメナガオサガニ（蟹）、リュウキュウズタ（海藻）、カラクサモク（海藻）、ニライカナイゴウナ（貝）、ミル属の一種（海藻）、アワセヒガタツバサゴカイ（ゴカイ・環形動物）他</p> <p>②泡瀬干潟で見つかった日本新記録種（5種以上） ジャングサマテガイ（貝）、オオウミヒルモ（海草）、ヒメウミヒルモ（海草）、オキナワホガタウロコムシ（環形動物）</p> <p>③泡瀬干潟にいる絶滅危惧種（174種以上）</p> <p>④絶滅危惧種（動物）156種 (貝類108種、甲殻類7種、魚類6種、鳥類35)</p> <p>⑤絶滅危惧種（植物）18種以上</p> <p>【泡瀬干潟を守る連絡会】</p> <p>この泡瀬干潟は「干潟の生物多様性の高さ日本一」とされており、100万年以上前からの自然史によるものだと言われている。氷河期を繰り返した地球の歴史の中で、沖縄本島は中国大陆とつながっていた。その頃、沖縄本島のある近くにその大河（現在の黄河等）の河口域があり、そこに住む生き物が現在の中城湾の安定した環境下で種の存続を果たし、生物多様性が保たれている。その生物多様性も亜熱帯という環境と、かつ中城湾という安定した環境という微妙なバランス下で形成され保たれていよう。しかし、泡瀬特有の生態系に住む多種多様な生き物たちの数は少なく（多種少數）、埋立による環境の変化によって多くの生き物が対応できずに死に絶えていくことが予想されている（脆弱性）。生物多様性のある干潟から単調な（種類も少ない）生き物しかいない干潟へ変化するのではないかと危惧されている。そのため、泡瀬干潟は「貴重」で、「重要」と言われ「保全」が求められている。</p> <p>泡瀬干潟を守る連絡会、泡瀬干潟の日本一、http://awase.net/、閲覧日</p>
20	*特色	

		2022/12/03. 内閣府 沖縄県総合事務局 那覇港湾・空港整備事務所 中城湾港出張所、環境保全への取り組み, 泡瀬地域の生物「生物ハンドブック」(2006年3月) http://www.dc.ogb.go.jp/nakagusukuwankou/detail.jsp?id=28&menuid=25&funcid=1.html , 閲覧日 2022/12/03.
2 1	*活用支援	
2 2	*利用分野	環境保全、地域学習、教育、生涯学習、観光
2 3	*改善結果	
2 4	*処理プロセス	
2 5	機関外リンク情報	
2 6	目標	
2 7	紹介	